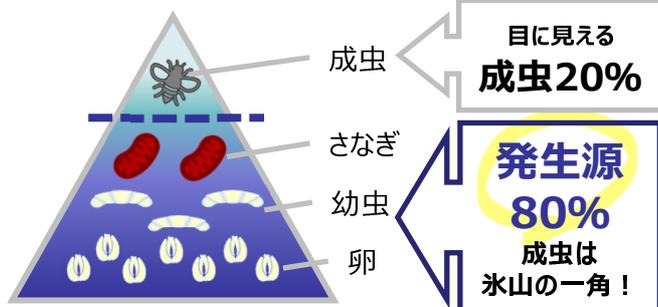


# こんにちは 家畜保健衛生所です

秋に向けたサシバエ対策で牛をランピースキン病などの病気・ストレスから守りましょう！

## 現在、サシバエの活動が活発な季節です！！

成虫がいる = 幼虫はもっと潜んでいる



温度とサシバエが卵から成虫になるまでの発育日数の関係



夏季は気温が高いため、発育速度が速い！  
幼虫対策をすれば、殺虫剤を撒く回数も減少！

## 秋のサシバエ対策は、いまのうちに！

秋にも発生のピークがあり、対策をしないとハエの数は爆発的に増加します・・・

### 1. 幼虫対策は、堆肥等の管理とIGR剤の散布！



堆肥の切り返しは隅々まで！

牛舎隅など牛が踏まない・糞の取り残しがある場所、カーペンなど子牛のいる牛床にIGR剤を散布！

つなぎ牛舎はバークリーナーへ散布！

### 2. 成虫対策は、防虫ネットや殺虫剤ローテーションで！



地面や床から2 mは防虫ネットで覆えるようにしましょう！隙間や穴がないか確認を！

殺虫剤はサシバエが飛ぶより上を狙って噴霧！

殺虫剤はローテーションを！噴霧量が十分か確認！

### 3. 対策は地域ぐるみで！関係業者も一緒に！

# サシバエ対策、ここをチェック！

1

## 堆肥・敷料・残餌はしっかり管理できている！

- ・切り返し等により堆肥発酵時の中心温度が65度になることを確認
- ・牛床は清潔に保たれ、汚れた敷料や残餌は片付いている

いいえ

## IGR剤を撒き、幼虫対策をしている！

- ・バンスクレーパーが通る前にバークリーナーに散布
- ・牛の踏まない所を中心に散布（特に牛舎隅など）

いいえ

## サシバエ幼虫は、堆肥等の管理+IGR剤で限りなく減らそう

サシバエの成虫 1匹は生涯600個もの卵を産む。そのため、夏期の成虫対策が非常に重要です。サシバエの活動が盛んな夏だからこそ、地域ぐるみで成虫や幼虫の両方に対する対策を強化する必要があります。

すばらしい！

はい

その調子！

はい



子孫残せ！

2

## 牛舎内でハエ成虫をほぼ見ない

いいえ

## サシバエ成虫を、牛舎内で見かけたら、対策徹底！

サシバエは農場内でも発生するし、他所からも飛んだり運ばれたりしてやってくる。地域ぐるみでの対策が重要。サシバエの持ち出しや持ち込みがないよう農場出入り業者にも車内の殺虫をお願いしましょう。

みんなのお手本！

はい



いい！住メ！

## サシバエ成虫対策 3つのポイント

### 1. 殺虫剤はローテーション

同じ殺虫剤を連用していると、生き延びたサシバエが耐性を持つことがある。殺虫剤が効きにくくなる前に、系統が異なる殺虫剤とローテーションで回していこう。十分な濃度・噴霧量で散布しているかも要チェック。

### 2. 防虫ネットの設置

地面から2mの高さまで床から天井に向けて設置。穴が開いてないか定期的にチェック。

### 3. 下草刈りや防草シートの設置

サシバエが日中休息する牛舎周辺の下草を刈ろう。防草シート設置も効果的。

# ランピースキン病の感染拡大防止！

## 車両や人による

農場から農場への伝播を防止しましょう

ランピースキン病は、主にサシバ工等による機械的伝播により感染が拡大しますが、車両や人もウイルスを運ぶ可能性があります。

### 車両がウイルスを運ばないために

農場の自家用車、集乳車、飼料運搬車、獣医師、人工授精師、薬品・資材業者、家畜運搬業者、関係団体など農場に出入りする全ての車両

- 農場に出入りする全ての車両は洗淨・消毒、殺虫を徹底！
- 車内に入り込んだサシバ工等も、確実に殺虫！

特に寒い時期、サシバ工等は温かい車両に集まりやすく、車内にも侵入します。

車体に  
集まったハ工



資材（牧草ロールや敷料など）にもサシバ工等が入り込む可能性があるため、搬入時確認！

### 人がウイルスを運ばないために

特に獣医師、人工授精師等、牛に直接触れる者

- 農場ごとに専用の衣服、長靴（ブーツカバー）交換の徹底！
- 注射針、人工授精用器具等は確実に一頭ごとに交換又は消毒
- 聴診器等皮膚に接触する器具も適切に消毒！

農場から農場への感染拡大防止！

